

美容外科

(いちのせ あきひろ)
特命准教授 一瀬 晃洋

美容医療の最近のトレンド

～引っ張らずにシワ・タルミを取り除く

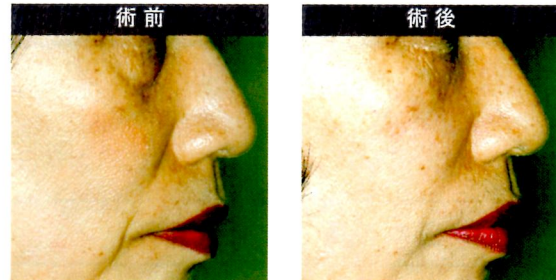
顔の老化の治療というと、皮膚を引っ張ったり引き締めたりすることを思い浮かべますが、最近は異なる概念での治療が世界的なトレンドとなってきました。今回は、老化による顔面の変形を修復する「ポリューメトリック・レストレーション」と、老け表情を消す「ボトックスフェイシャル」を紹介致します。

1. ポリューメトリック・レストレーション (症例写真)

私たちの顔は、加齢に伴って皮膚が弛緩するだけでなく顔面骨も痩せてきます。すると、顔面の表面の変形凹み、溝、くまなど)が生じて、他人からみて年をとったと感じる顔に変化していきます。この変形の代表的なものは、上まぶたの凹み、下まぶたの目袋・くま、頬・こめかみの凹み、ほうれい線やマリオネットライン(下あごの溝)、唇の痩せなどです。ポリューメトリック・レストレーションは、皮膚を引っ張ることなく、ヒアルロン酸や脂肪の注入を上手に用いて変形を修復して、元の形に戻すアンチエイジング治療です。特にここ数年は、脂肪注入の技術がどんどん改良されて世界的に流行しています。脂肪注入の利点は、①自己脂肪で修復するため安全性が高いこと、②メスを用いないために傷跡を生じないこと、③長持ちする(一生持続する可能性もある)ことです。反面、脂肪が目的の部位からはずれた部位に注入された場合には、長期間残ってしまいます。注入によってきれいな形をつくることは実際には容易ではなく、治療の結果は医師の技量や考え方に大きく左右されます。ヒアルロン酸注入は手軽に行える方法ですが、持続期間は約1年と短いことが欠点です。

2. ボトックスフェイシャル

顔の表情は、40種類以上ある表情筋が縮むことにより生



中顔面のポリューメトリック・レストレーション
(症例写真の使用の許諾、深謝申し上げます)

じますが、加齢に伴う老け表情も表情筋により作られます。ボトックスフェイシャルは、表情筋の収縮を緩める作用があるボツリヌス毒素を微量用いて、顔全体の表情筋をコントロールすることにより老け表情を消して若返らせる治療です。従来、難しいとされてきた微妙な筋肉のコントロールが、ボトックスピスタの登場により可能になってきました。ボツリヌス毒素はもともと人体に有害ですが、ボトックスピスタは美容医療用途に厚生労働省により承認された医薬品ですので、安心して治療を受けて頂くことができます。ボトックスではない未承認の類似品も市中に多く出回っていますので、注意が必要です。

美容医療は、私たちが元気に生きていくための医療の一つです。美容医療は受ける人の社会性に大きなインパクトを与えますが、魔法の様に望んだ結果が得られるものではなく、多くの治療法の中から自分にぴったりのものを選ぶことが重要です。神戸大学病院美容外科では、顔面のアンチエイジング治療として、加齢による皮膚の弛緩(タルミ・シワ)の治療に加えて、皮膚のきめや色素性病変(シミや赤ら顔など)の治療や、育毛・植毛などの毛髪のご相談も承っております。どうぞ院内の方々も美容医療の意義を御体験頂きますよう、スタッフ一同お待ちしております。また、美容医療の教育の拠点として日本美容外科専門医取得を目指すプログラムを設定しておりますので、多くの若い先生方の御参加をお待ちしております。